

3. 中国の鶏肉の需給構造分析

(1) 肉用鶏の種類

中国における肉用鶏の生産、流通、及び集計は、主に以下の3つの区分に基づいている。

■ 肉用鶏の種類区分

○ 白羽肉鶏



- 白羽肉鶏は、1980年代末に海外から導入された、食肉専用の雑種鶏。日本におけるブロイラーの概念に近似している。主要品種は海外産のAAプラス、Ross 308、Cobbなどであるが、2021年末に国内産の「聖澤901」などが系統交配種に認定された。
- 一般的に、出荷日齢は約35日～42日で、体重は2.3～3.0kg。
- 飼料要求率（1kg体重増加に必要な飼料の量kg）は1.6～1.8。
- 主な消費方式は処理、分割して販売されている。
- 主な生産企業は、禾豊食品股分有限公司（Wellhope）や福建聖農発展股分有限公司（Sunnor）などが挙げられる。

○ 黄羽肉鶏



- 黄羽肉鶏は、中国原産の在来種で、地方品種を交配させて育成された品種。日本の地鶏の概念に近い概念のものと言える。
- 羽色は黄色だけでなく、赤色、褐色、白色、黒色、横斑など多様。
- 地方品種は100種類以上存在し、出荷体重によって大型、標準型、小型に分けられる。また、出荷日齢によって高速成長型、標準型、低速成長型にも分類される。
- 飼料要求率は品種によって異なり、およそ1.8～3.5の範囲。
- 地方品種の多くは低速成長型で、生きた鶏や処理された冷蔵生鮮品が主な販売形態。
- 風味豊かなことから、家庭や中華料理店で主に使用される。特に南方地域（広東省や広西自治区）のスープ料理など、地域の飲食習慣に適している。
- 主な生産企業には、温氏食品集団股分有限公司（Wens）や江蘇立華牧業股分有限公司（Lihua）などが挙げられる。

○ ハイブリッド肉鶏



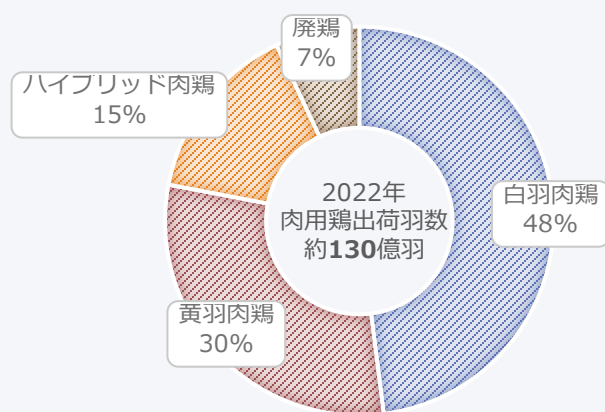
- ハイブリッド肉鶏は成長の早い大型のブロイラーを父鶏、採卵鶏を母鶏とする交雑種。主な品種は「817肉鶏」など。
- 出荷日齢は消費需要に応じて異なり、一般的に50日で体重約1.5kgとなる。飼料要求率は1.8～2.0。
- 現在、ハイブリッド肉鶏は鶏の丸焼き加工製品の主要原料として用いられている。
- 生産コストが比較的安く、肉質も比較的良好であることから、また生鶏の取引市場における制限が多いことから、ハイブリッド肉鶏の冷蔵生鮮品市場は急速に拡大している。
- 主な生産企業は、山東奥祥禽業有限公司や河南森勝農牧有限公司などが挙げられる。

(2) 肉用鶏出荷羽数と鶏肉生産量

■ 肉用鶏の出荷羽数

- ・ 中国政府は、鶏、鴨、ガチョウなどを含む家禽に関する出荷羽数の統計データを公表しているが、鶏単独の出荷羽数は公表されていない。
- ・ ヒアリングによると、2022年の肉用鶏の出荷羽数は約130億羽で、コロナ後の外食産業の回復などによる需要は回復しつつある。しかし、世界情勢による飼料コストの増加、海外の鳥インフルエンザ発生、米国との国際便減少による白羽肉鶏原種GPの導入量減少などが影響し、前年比約4%減少した。
- ・ 2022年の肉用鶏出荷羽数ベースでは、白羽肉鶏が全体の約50%、黄羽肉鶏が約30%を占めている。2015年から2022年までの期間において、黄羽肉鶏の割合は減少傾向にある。
- ・ 黄羽肉鶏の割合減少の主な要因は、家庭消費が主である黄羽肉鶏の消費低迷、飼料価格の高騰による零細な生産者の離農、一部都市での生きた家禽販売の制限（食品安全及び公衆衛生上のリスクなどの考慮）が挙げられる。

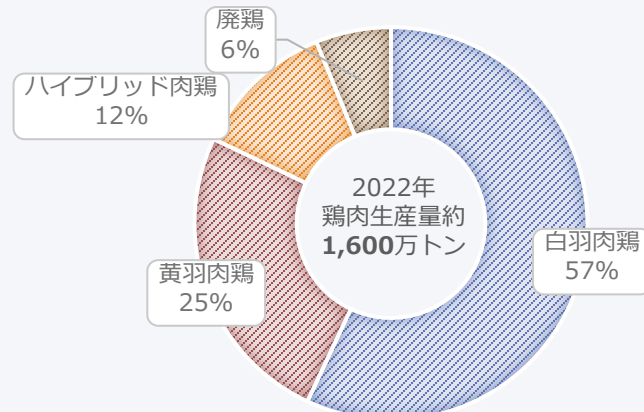
種類別肉用鶏出荷羽数の構成比（2022年）



■ 鶏肉の生産量

- ・ 中国政府は、鶏、鴨、ガチョウなどを含む家禽に関する生産量の統計データを公表しているが、鶏単独の生産量は公表されていない。
- ・ ヒアリング結果によると、2022年の中国における鶏肉生産量は約1,600万トンであった。このうち、白羽肉鶏が約60%、黄羽肉鶏が約25%を占めている。
- ・ 中国国内では、2019年から2020年にかけてアフリカ豚熱の影響により豚肉の供給不足が発生した。このため、経済的で短期間で供給可能な鶏肉が豚肉の代替品として需要が高まり、急速に生産量が増加した。しかし、2022年には国内の豚肉の供給増加や飼料価格の高騰などから、鶏肉の生産増加速度が鈍化していると考えられる。
- ・ 中国農業農村部の公開資料によれば、2022年の中国における食肉の総生産量は9,328万トンである。そのため、鶏肉の生産量が食肉全体に占める割合は約17%と推定され、中国の食肉の中で豚肉（5,541万トン）に次いで第2位となっている。

種類別鶏肉生産量の構成（2022年）



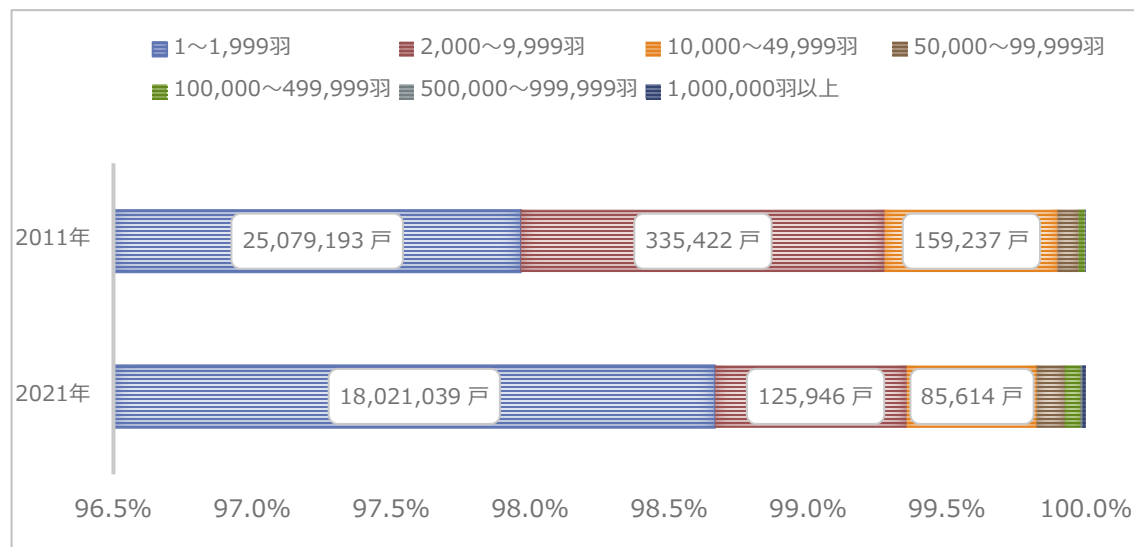
(1) 肉用鶏の飼養戸数

- 中国では、年間出荷羽数に基づいて7～8つの規模に分類し、肉用鶏飼養戸数を集計している。
- 2021年のデータによると、全国の肉用鶏飼養戸数のうち、年間出荷羽数が2,000羽未満の戸数が1,802万戸で、全体の98.7%を占めている。これは、零細な生産者が依然として多数を占めていることを示している。しかし、農村部の労働力減少、生産コスト増加、環境保全基準向上、都市化率向上などの背景から、経営規模化・効率化への要求が高まっており、零細生産者の廃業が増加している。その結果、肉用鶏産業は大規模化の傾向にある。
- 2011年から2021年にかけて、肉用鶏飼養戸数は減少傾向にあり、2021年には1,826万戸となっている。このうち、年間出荷羽数が1万羽未満の戸数は、2011年に2,541万戸であったが、2021年には3割弱減少し1,815万戸となった。一方、年間出荷羽数が5万羽以上の大規模化経営は、2011年に2.6万戸から2021年には3.2万戸へと増加している。特に、年間出荷羽数が100万羽以上の戸数は、2011年に309戸で、2021年には1,792戸へと大幅に増加している。

■ 出荷規模別肉用鶏飼養戸数の変化（2011年と2021年）

単位：戸、%

肉用鶏出荷規模別	2011年	2021年
1～1,999羽	25,079,193	18,021,039
2,000～9,999羽	335,422	125,946
10,000～49,999羽	159,237	85,614
50,000～99,999羽	19,274	18,233
100,000～499,999羽	5,605	10,544
500,000～999,999羽	701	1,443
1,000,000羽以上	309	1,792



(出所) 各年次の『中国畜牧獣医年鑑』のデータを基に作成。

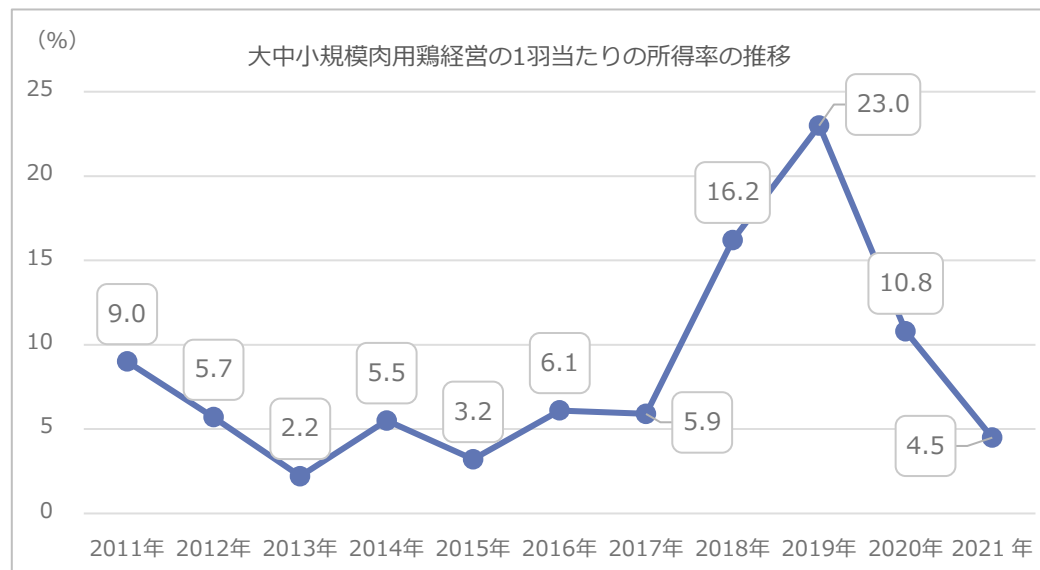
(2) 肉用鶏経営の収益性

- 国家発展改革委員会価格司が編成した「全国農産品成本収益資料滙編」によれば、肉用鶏生産者はその飼養規模により、零細経営（～300羽）、小規模経営（301羽～1,000羽以下）、中規模経営（1,001羽～10,000羽以下）、大規模経営（10,001羽～）の4つに分類される。ただし、同資料において肉用鶏経営の収益性や生産費に関しては、「大中小規模肉用鶏経営」（301羽～）のみが公開されている。
- 2011年から2021年までの大中小規模肉用鶏経営の収益性を見ると、この10年間で、1羽当たりの所得率は変動したものの、すべてプラスの範囲にあり、特に2019年には

23%と最も高かった。

この所得率の変動は、養豚産業に比べ非常に安定しており、養豚産業が多くの人にわたってマイナスの所得率を記録する中で、肉用鶏の経営は安定しており、優れた経営性を示している。

■大中小規模の肉用鶏経営における1羽当たりの収益性の推移（2011年～2021年）



単位：元/羽、%

年次	全算入生産費	所得	所得率
2011年	24.54	2.20	9.0
2012年	25.81	1.46	5.7
2013年	25.34	0.57	2.2
2014年	26.32	1.44	5.5
2015年	25.89	0.82	3.2
2016年	25.05	1.53	6.1
2017年	24.96	1.48	5.9
2018年	27.70	4.50	16.2
2019年	30.46	7.02	23.0
2020年	28.72	3.11	10.8
2021年	31.04	1.41	4.5

(出所) 農業農村部<http://ncpscxx.moa.gov.cn/>などのデータに基づき作成。

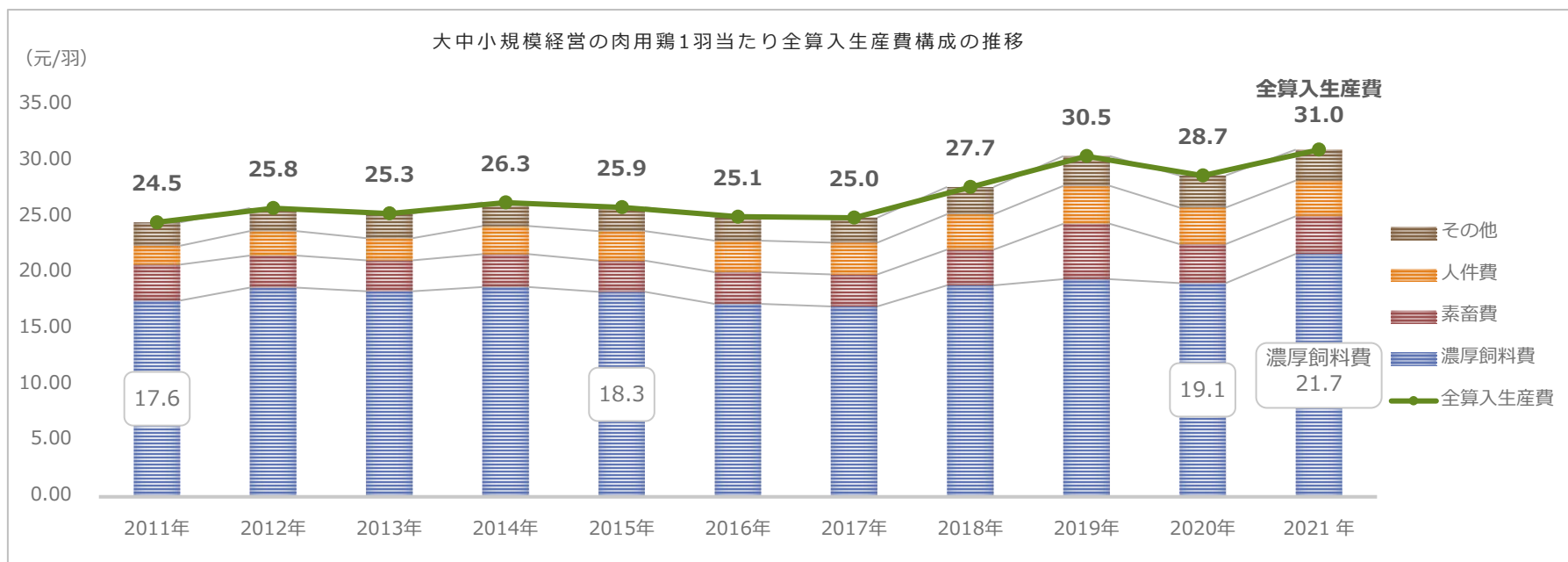
(注) ①全算入生産費は、地代を含む生産費を指す。
②所得率＝所得÷全算入生産費×100%

(3) 肉用鶏経営の生産費

- 2022年版の「全国農産品成本収益資料滙編2022」によれば、2021年の大中小規模肉用鶏経営（301羽～）における全算入生産費は、1羽当たり31.04元となり、前年比で8.1%上昇した。
- 全算入生産費の内訳を見ると、濃厚飼料費用が全算入生産費の70%（2021年時点）と、最も大きな部分を占めている。
同時に、素畜費や人件費などのその他の費用も増加して

いるが、2011年から2021年までの年平均増加率を比較すると、最も大きな増加は人件費であり、2011年時点では1.68元/羽であったが、2021年には3.27元/羽に増加している。

■大中小規模の肉用鶏経営における1羽当たりの生産費の推移（2011年～2021年）



(注) ①全算入生産費は、地代を含む生産費を指す。

(出所) 農業農村部<http://ncpscxx.moa.gov.cn/>などのデータに基づき作成。

(1) 肉用鶏の主要な生産企業

- 各種公開資料を整理すると、中国において白羽肉鶏の主な生産企業は下表の通りである。
これら上位15社の2022年の出荷羽数は、同年中国全体の白羽肉

鶏出荷羽数の約58%を占めると推定され、業界の集約度は豚や牛などの他畜種と比べて高い水準にある。

■ 白羽肉鶏の生産企業ランキング（上位15社）（2022年出荷羽数順）

順位	社名	本社所在地	白羽肉鶏（億羽）（2022年）	
			出荷羽数	処理羽数
1	禾豊食品股份有限公司（www.wellhope-ag.com）	遼寧省瀋陽市	6.5	7.2
2	福建聖農發展股份有限公司（www.sunnercn.com）	福建省南平市	6.0	6.1
3	新希望六和股份有限公司（www.newhopeagri.com/）	四川省綿陽市	3.1	3.1
4	正大畜牧投資（北京）有限公司（www.cpgroup.cn/）	北京市	2.8	4.6
5	山西大象農牧集團有限公司（Daxiang）	山西省呂梁市	2.1	2.0
6	山東仙壇股份有限公司（www.sdxiantan.com/）	山東省煙台市	1.9	2.0
7	山東鳳祥股份有限公司（www.fengxiang.com/）	山東省聊城市	1.6	1.4
8	青島九聯集團股份有限公司（Jiulian）	山東省萊西市	1.5	1.2
9	河南雙滙投資發展股份有限公司（www.shuanghui.net/）	河南省漯河市	1.5	1.5
10	河南省淇県永達食業有限公司（yongda）	河南省鶴壁市	1.5	1.5
11	北票市宏發食品有限公司（www.bphongfa.com/）	遼寧省北票市	1.5	—
12	諸城外貿有限責任公司（Zhu cheng wai mao）	山東省諸城市	1.5	—
13	瀋陽耘墾牧業有限公司（www.yunken.net/）	遼寧省瀋陽市	1.4	2.4
14	河北玖興農牧發展有限公司（www.jiuxingnongmu.com/gsy）	河北省保定市	1.2	1.2
15	大連成三畜牧業有限公司（Dalian Chengsan Animal Husbandry Co.,Ltd.）	遼寧省大連市	1.0	0.7

（出所） 各種公開資料を基に作成。一部データは推定値。

(1) 肉用鶏の主要な生産企業

- 各種公開資料を整理すると、中国において黄羽肉鶏の主な生産企業は下表の通りである。これら上位15社の2022年の出荷羽数は、同年中国全体の黄羽肉鶏出荷羽数の約60%を占めると推定され、

業界の集約度は豚や牛などの畜産業に比べて高い水準にある。ただし、各社の出荷規模を見ると、1億羽以上の生産者は2社のみ。これは品種の多様化、地域性に関連していると考えられる。

■ 黄羽肉鶏の生産企業ランキング（上位15社）（2022年出荷羽数順）

順位	社名	本社所在地	肉用鶏出荷羽数 (億羽) (2022年)
1	温氏食品集团股份有限公司 (www.wens.com.cn/)	広東省雲浮市	11.0
2	江蘇立華牧業股份有限公司 (www.lihuamuye.com)	江蘇省常州市	3.9
3	四川德康農牧食品集团股份有限公司	四川省成都市	1.0
4	広西参皇養殖集团有限公司 (www.shenhuang.cn/)	広西玉林市	1.0
5	湖南湘佳牧業股份有限公司 (www.xiangjiamuye.com/)	湖南省石門県	0.9
6	和盛食品集团有限公司 (www.heyingskg.com/all/index.html)	江蘇省泰州市	0.7
7	桂林力源糧油食品有限公司 (www.liyuan99.com)	広西桂林市	0.7
8	桂林大發養殖有限公司	広西桂林市	0.6
9	広西富鳳農牧集团有限公司 (www.gxffjt.com/)	広西南寧市	0.4
10	広西新天地農牧集团有限公司	広西南寧市	0.4
11	広東天農食品集团股份有限公司 (www.tnong.com/)	広東省清遠市	0.4
12	広西園豐牧業集团股份有限公司 (www.gxyuanfeng.com/)	広西欽州市	0.4
13	安徽華衛集團禽業有限公司 (www.ahhwjt.com/)	安徽省宣城市	0.3
14	新疆泰昆集團有限責任公司 (www.tycoon.cn/)	新疆昌吉州	0.3
15	広西春茂農牧集团有限公司 (www.gxcmjt.com/Index.html)	広西玉林市	0.2

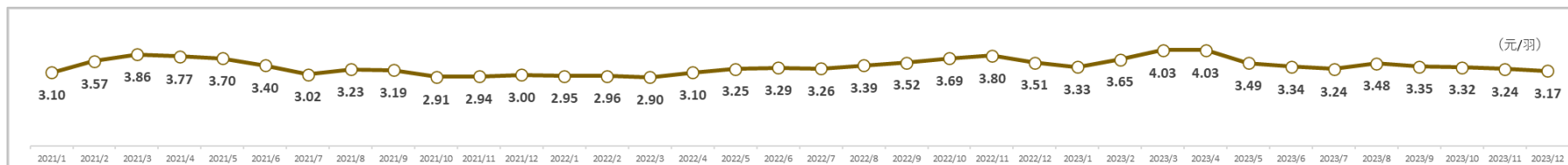
(注) 上記の出荷羽数は、主に黄羽肉鶏を含む肉用鶏全般の出荷羽数を指す。一部の企業、例えば温氏食品集团有限公司は、白羽肉鶏と黄羽肉鶏の両方を飼育している。

(出所) 各種公開資料を基に作成。一部データは推定値。

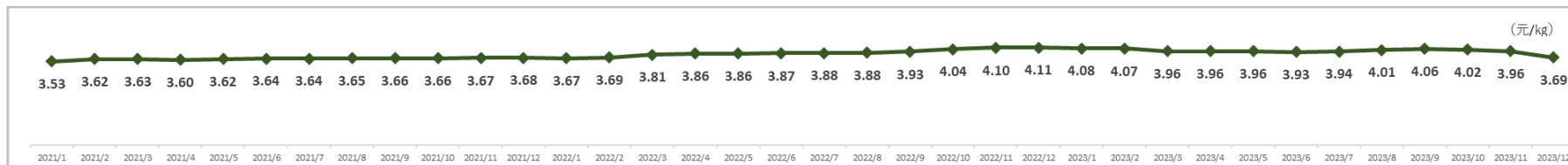
(2) 肉用鶏の生産に関連する価格

- 農業農村部は全国の500の町にわたり、主要な集貿市場（農産物などを自由に取引する市場）及びモニタリング採集点（村、飼養場）から畜産物や飼料の価格情報を収集している。
- 公表された週次データを整理すると、2021年から2023年の3年間で肉用鶏の実用鶏ひなの年間平均市場価格は、それぞれ3.31元/羽、3.30元/羽、3.47元/羽であった。変動はあったものの、年間で見ると、わずかながらも上昇傾向が見られた。
- 2021年から2023年の3年間で、肉用鶏配合飼料の年間平均市場価格は、それぞれ3.63元/kg、3.89元/kg、3.97元/kgであった。
- 公表された週次データを整理すると、ここ3年間で丸鶏（中抜き）の年間平均価格は、2021年が21.72元/kg、2022年が23.87元/kg、2023年が24.12元/kgと微増しています。また、ここ3年間の丸鶏（中抜き）の全国月次平均価格は、最安値が21.18元/kg、最高値が25.76元/kg、平均値が23.24元/kgとなっている。

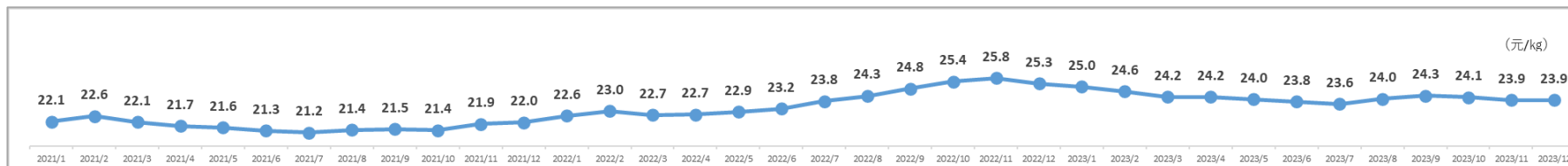
■ 実用鶏CMひなの月間平均価格の推移（2021年1月～2023年12月）



■ 肉用鶏配合飼料の月間平均価格の推移（2021年1月～2023年12月）



■ 丸鶏（中抜き）の月間平均価格の推移（2021年1月～2023年12月）



(出所) 農業農村部の週次資料（<https://www.nahs.org.cn/jcyj/jghq/>）を整理して作成。

(3) 品種・育種施設

■肉用鶏の品種について

- 2021年版の「国家家畜・家禽遺伝資源品種目録」によれば、中国における鶏（肉用種と採卵鶏を含む）の品種は、地方品種（115種）、交雑種（5種）、系統交配種（80種）、海外導入種（8種）、海外導入系統交配種（32種）が存在している。
- 2018年まで、中国の白羽肉鶏の原種鶏（GP）供給は主に海外（エビアジェン社など）からの輸入に依存していた。しかし、2019年には、国内企業が独自に育成した「聖澤 901」が登場し、国内供給が始まった。さらに、2021年12月に国家畜禽遺伝資源委員会の審査により、国内で育成された3つの白羽肉鶏品種、「聖澤901」、「広明2号」、「沃徳188」が初めて認定された。
これらの国内育成品種は、国内市場シェア拡大だけではなく、品種輸出にも力を入れている。例えば、「沃徳188」の種鶏（PS）ひなは2023年6月にタンザニアへの輸出されている。
- 黄羽肉鶏の原種鶏（GP）はすべて国内産であり、品種や供給者に大きな変化がないため、供給量は比較的安定している。
- 代表的なハイブリッド肉鶏品種としては、「817肉鶏」（小型良質肉用鶏、山東省莘県が最大の生産地）と「益生909」が挙げられる。「益生909」は山東益生種禽股分有限公司（<http://www.yishenggufen.com/>）が自主的に育成した新品種で、2021年12月に国家畜禽遺伝資源委員会から新品種の系統交配種に認定された。

■肉用鶏の育種場について

- 2021年における中国の肉用鶏育種場は、原々種鶏・原種鶏（GGP・GP）育種場が189か所、種鶏（PS）育種場が1,117か所となっている。
地域別分布として、原々種鶏・原種鶏育種場の数及びその飼餌付羽数が最も多いのは広東省と広西自治区であり、次いで遼寧省が続いている。
一方、種鶏(PS)育種場は、山東省と遼寧省が施設数及び飼養規模ともに圧倒的に多い地域となっている。特に遼寧省は肉用鶏、特に白羽肉鶏の主要な生産地として際立っている。
- 中央政府が認定した肉用鶏の中核育種場には、以下の事例がある。
 - 北京市華都峪口家禽育種有限公司(小曹庄鸡場)
(所在地：北京市順義区。系統交配品種：沃徳188(白羽肉鶏))
 - 広東智威農業科技股分有限公司英徳分公司
(所在地：広東省英徳市。系統交配品種：嶺南黄鶏Ⅱ号、3号)
 - 広西鳳翔集团股分有限公司
(所在地：広西自治区。系統交配品種：鳳翔青脚麻鶏、鳳翔烏鶏)

(1) 鶏肉の輸入量

- 中国は鶏肉の生産大国でありながら、同時に鶏肉の消費大国でもある。2002年以降、中国は概ね鶏肉の純輸入国となり、2023年における鶏肉の輸入量は120万トンで、対照的に輸出量は25万トンであった。
- 2020年から2021年にかけて、中国の鶏肉輸入量が急増した要因には以下が挙げられる。
 - 2018年8月に発生したアフリカ豚熱による豚肉の国内供給不足
 - 新型コロナウイルスの影響で外出が制限され、ネット通販での輸入鶏肉の冷凍品が好調であったこと
 - 輸入鶏肉の価格が国産品よりも安価であることから、食肉加工業者が優先的に利用したこと
- また、2022年から2023年にかけて、鶏肉の輸入量は高い水準を維持しているが、2020年のピークからは減少傾向にある。この減少には海外の高病原性鳥インフルエンザの影響や国内の豚肉生産量の回復などが要因として考えられる。

■ 鶏肉の輸入量の推移 (2015年～2023年)



鶏肉の輸入・輸出計算に使用される品目

タリフライン	品名 (仮訳) (日本語)	関税率	
		基本	WTO協定
02071100	丸鶏 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02071200	丸鶏 (冷凍)	5.6元/kg (従量税)	20%
02071311	骨付き鶏肉 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02071319	その他の鶏肉 (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02071321	手羽 (手羽はしを除く) (生鮮・冷蔵)	70%	20%
02071411	骨付き鶏肉 (冷凍)	4.2元/kg (従量税)	0.6元/kg (従量税)
02071419	その他の鶏肉 (冷凍)	10% + 9.5元/kg (従量税 + 従価税)	0
02071421	手羽 (手羽はしを除く) (冷凍)	8.1元/kg (従量税)	0.8元/kg (従量税)
02071422	鶏足 (冷凍)	3.2元/kg (従量税)	1.0元/kg (従量税)

【補足】

- 調査の結果、2015年から2023年までの期間において、タリフライン「02071100」及び「02071319」に分類される鶏肉関連品目の輸入実績は確認されなかった。
- また、左表では経済連携協定 (EPA) の関税率は省略している。

(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

(2) 鶏肉の輸入品目

- 中国の鶏肉輸入は、2015年から2023年までの期間、ほぼすべて冷凍品で占められていた。
生鮮または冷蔵品の輸入量はごくわずかで、2023年にはブラジルから輸入された手羽が54トン（全体の輸入量のうち約0.005%）と最大であった。
- 2023年の輸入量ベースでは、「冷凍鶏足」が44.1%で最も多く、次いで「手羽」が29.7%、「骨付き鶏肉」が25.8%であった。
- 中国では、鶏足を食材として食べる習慣がある。レスト

ランなどでよく使われ、調理済食品としてスーパーなど売られ、加工されておつまみとして商品としてよく販売されている。

現地ヒアリングによれば、中国では毎年約420億羽の鶏足（主に白羽肉鶏のもの）が消費されており、そのうち約8割が輸入品に依存している。

■ タリフライン別鶏肉の輸入量の推移（2015年～2023年）

単位：トン

年次	冷凍したもの					生鮮または冷蔵したもの		輸入量計
	02071200 (丸鶏)	02071411 (骨付き鶏肉)	02071422 (鶏足)	02071421 (手羽はしを除いた手羽)	02071419 (その他の鶏肉)	02071311 (骨付き鶏肉)	02071321 (手羽はしを除いた手羽)	
2015年	55	63,587	126,461	175,192	370	0	0	365,665
2016年	1,234	160,244	140,238	216,243	9,624	0	0	527,584
2017年	1,058	73,561	139,911	195,430	283	4	0	410,246
2018年	1,327	69,759	160,672	215,925	9,402	0	0	457,085
2019年	5,231	228,177	200,367	269,980	18,698	11	0	722,463
2020年	13,062	447,725	527,990	409,776	33,776	6	0	1,432,335
2021年	6,048	338,951	673,884	326,421	7,703	0	0	1,353,007
2022年	6,515	230,627	664,586	327,499	704	0	0	1,229,930
2023年	2,911	309,820	529,543	356,322	2,034	0	54	1,200,685

(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

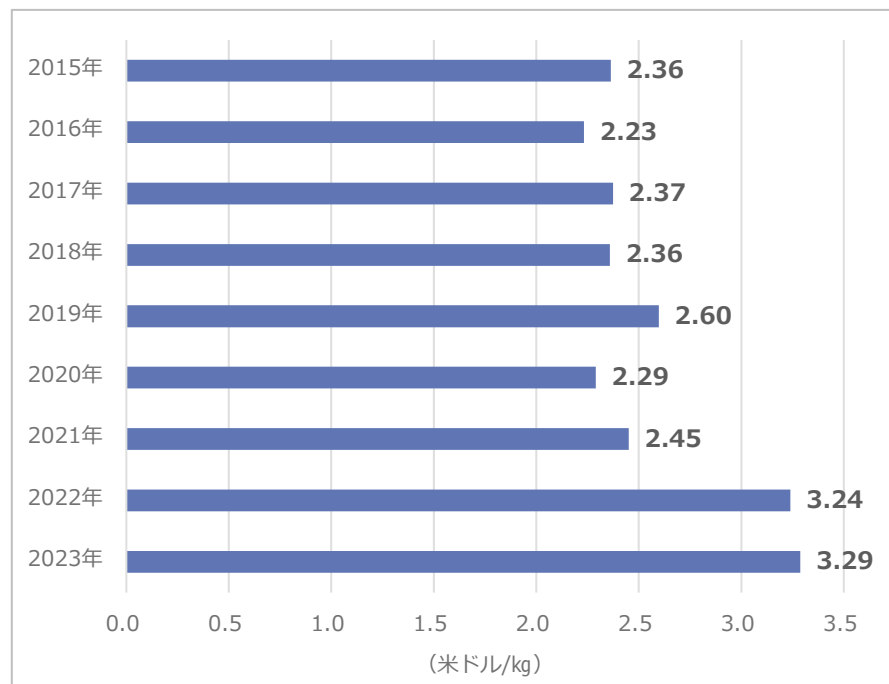
(3) 鶏肉の輸入価格

- 世界的な食鳥の需給関係や飼料などの生産コストの影響で、中国における鶏肉の1kg当たりの平均輸入価格（CIF、運賃・保険料込み価格）は変動している。特に、原油価格の高騰などの影響で、2022年から比較的大きな上昇が見られ、2022年は前年比32%増の3.24米ドルであった。2023年も、2015年以来最も高い水準の3.29米ドルとなっている。
- 2023年の鶏肉輸入各品目の平均価格において、最も多く

輸入された「鶏足（冷凍）」の平均価格は1kg当たり4.26米ドルであり、鶏肉全品目平均輸入価格の中で最も高い水準となっている。

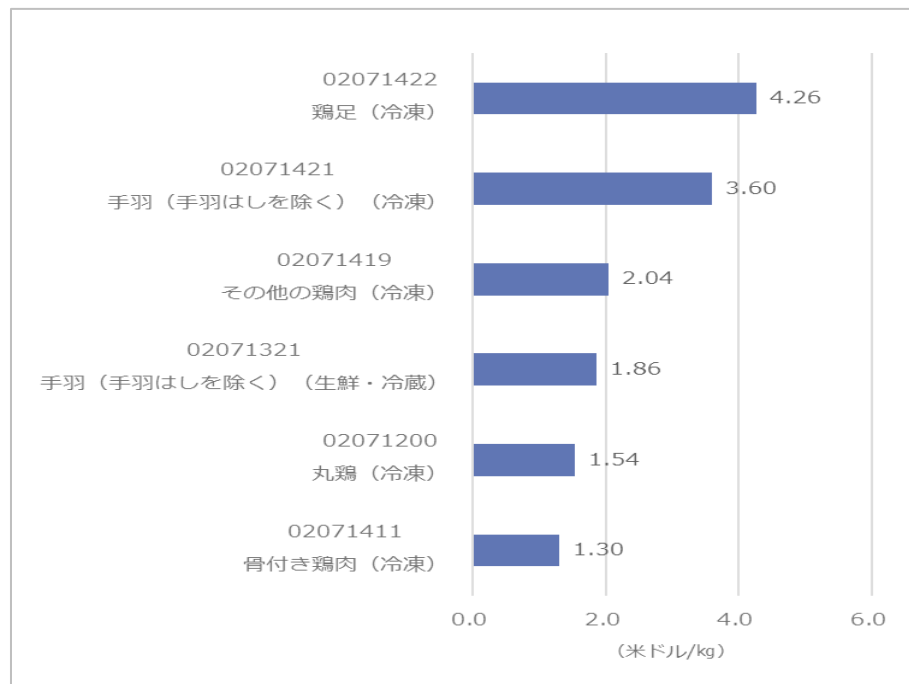
一方で、冷凍した丸鶏や骨付き鶏肉が比較的安価である。

■ 鶏肉の平均輸入価格の推移（2015年～2023年）



(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

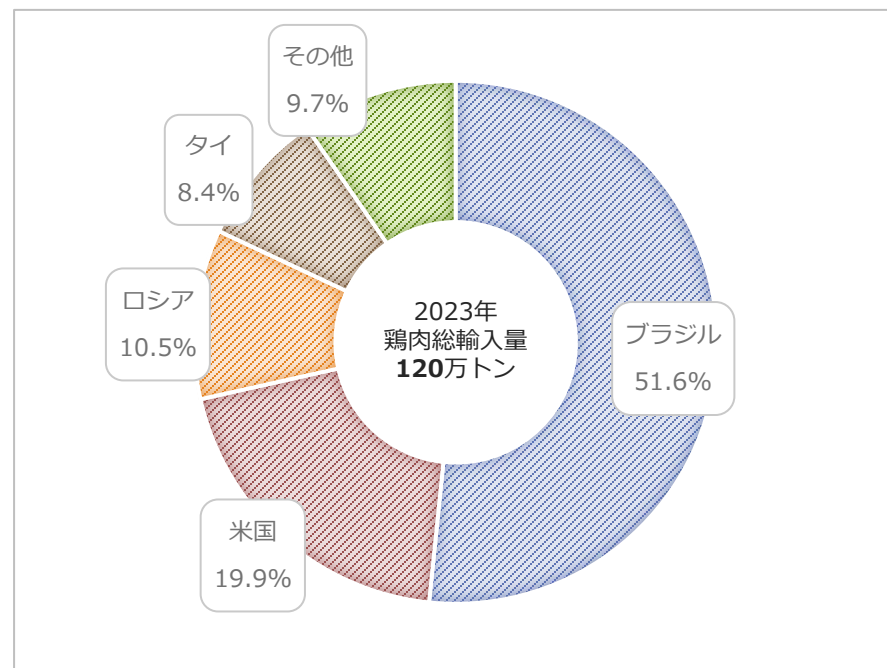
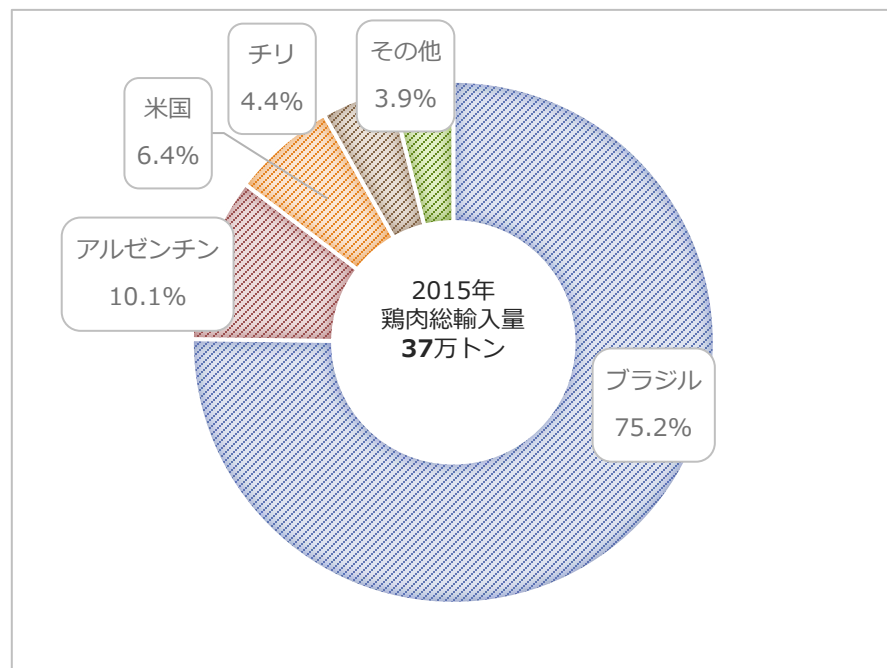
■ タリフライン別鶏肉の平均輸入価格（2023年）



(4) 鶏肉の輸入相手国

- 中国の鶏肉の輸入相手国は、2015年には7か国、2020年は12か国、2021年は10か国、2022年には8か国、そして2023年には9か国と、10か国前後で推移している。
- 2015年以降、中国はブラジルから鶏肉を最も多く輸入しており、国内の鶏肉需要の拡大に伴い、ブラジルからの鶏肉輸入量は2015年の28万トンから2023年の62万トンへと約2倍に増加した。しかし、2020年以降は、米国、ロシア、タイからの輸入も急増し、ブラジルからの輸入量が輸入全体に占める割合は、2015年の75%から2023年には52%に低下した。
- 2022年と2023年の輸入鶏肉の平均価格を見ると、最大の輸入相手国であるブラジルからの平均輸入価格はそれぞれ2.86米ドル/kg、2.96米ドル/kgで、全体の平均価格よりも約10%低かった。
- なお、ブラジルでは2023年5月に高病原性鳥インフルエンザが発生したが、中国はブラジルの輸入を停止しておらず、2023年の輸入量は2022年を上回っている。

■ 鶏肉の主要な輸入相手国の変化（数量ベース）（2015年と2023年）



(出所) 中国税関総署のデータベースに基づき作成。

(1) 肉用鶏の主要な処理加工企業

- 中国において現在最大の白羽肉鶏処理加工企業は遼寧省に本社を置く「禾豐食品股分有限公司（Wellhope）」。
2022年の白羽肉鶏部門の売上高は93億元、処理量は7.2億羽、販売した分割品は186万トン、調理食品及び高温食品は2.7万トン。
食鳥処理量は2014年の1.5億羽から、2021年に6.9億羽、2022年に

は7.2億羽と右肩上がり。

- 黄羽肉鶏の処理加工能力が最も高い企業は、広東省に本社を置く「温氏食品集団股分有限公司」（Wens）である。2022年には、同社の黄羽肉鶏商品（生鶏、生鮮の丸鶏、調理済みの丸鶏を含む）の販売量は10.8億羽、販売額は340億元であった。

■ 白羽肉鶏の主要な処理加工企業（年処理量基準）

企業名称	本社所在地	年処理量（億羽）	
		2021年	2022年
禾豐食品股分有限公司 (www.wellhope-ag.com)	遼寧省瀋陽市	7.0	7.2
福建聖農發展股分有限公司 (www.sunnercn.com)	福建省南平市	5.5	6.1
正大畜牧投資（北京）有限公司 (www.cpgroup.cn/)	北京市	3.9	4.6
新希望六和股分有限公司 (www.newhopeagri.com/)	四川省綿陽市	3.7	3.1
山東太和食品集団	山東省臨沂市	—	2.7
瀋陽耘壟牧業有限公司 (www.yunken.net/)	遼寧省瀋陽市	2.3	2.4
江蘇益客食品集団股分有限公司 (www.ecolovo.com/)	江蘇省宿遷市	2.2	2.4
山東仙壇股分有限公司 (www.sdxiantan.com/)	山東省煙台市	1.0～2.0	2.0
山東超和食品集団	山東省臨沂市	—	1.9
山東鳳祥股分有限公司 (www.fengxiang.com/)	山東省聊城市	1.0～2.0	1.4

（出所） 各種公開資料を整理して作成。

■ 黄羽肉鶏の主要な処理加工企業（2022年末処理能力基準）

社名	本社所在地	年処理能力 （億羽）
温氏食品集団股分有限公司 (https://www.wens.com.cn/)	広東省雲浮市	2.9
広西參皇養殖集団有限公司 (www.shenhuang.cn/)	広西玉林市	1.2
広西金陵農牧集団有限公司 (www.gxjlnm.com/)	広西南寧市	0.5
広東天農食品集団有限公司 (www.tnong.com/)	広東省清遠市	0.5
広東愛健康生物科技有限公司	広東省清遠市	0.5
広西富鳳農牧集団有限公司 (www.gxffjt.com/)	広西南寧市	0.5
湖南湘佳牧業股分有限公司 (www.xiangjiamuye.com/)	湖南省常德市	0.4
惠州順興食品有限公司 (www.tangshunxing.com/)	広東省惠州市	0.4
深セン市光信企業管理有限公司	広東省深セン市	0.3
広西園豐牧業集団股分有限公司 (www.gxyuanfeng.com/)	広西欽州市	0.3

(2) 鶏肉の流通・消費状況

- 国民の生活水準の向上に伴い、健康志向が高まり、鶏肉は健康的な食材（低脂肪、低コレステロール、低カロリー、かつ高蛋白質）として好まれている。
- さらに、家族規模の縮小や若い世代の社会進出に伴い、

台所で過ごす時間が短くなり、調理済みや半加工品、多様な鶏肉製品の需要が高まっている。特に、ヘルシーで簡単に調理できる鶏肉料理が人気を集めている。今後も鶏肉の消費量が拡大すると予測される。

■ 肉用鶏の流通・消費関連動向

○ 白羽肉鶏



- 中国では、白羽肉鶏は黄羽肉鶏と比較して成長が速く、飼育期間が短く、加工に適しているため、主に分割されて市場で流通されている。
- 現地ヒアリングによれば、白羽肉鶏の出荷量の約90%は処理加工後の冷蔵・冷凍品の分割品であり、残った約10%は生鶏または処理加工された丸鶏での出荷となっている。南方地域（広東省や広西自治区など）では、主に分割品が食用と

されているが、一方で東北地域（黒竜江、吉林など）、西北地域（陝西、甘肅など）、華北地域（河北省など）では丸ごと一羽を食べる習慣が見られる。

- 白羽肉鶏はファーストフードチェーンで好まれる原料であり、健康志向や利便性への需要の高まりを受けて市場需要が増え、白羽肉鶏の「預製菜」（調理済み・半調理済み製品）もトレンドとなると予想されている。

○ 黄羽肉鶏



- 黄羽肉鶏は地域によって多様な品種があり、通常、飼育期間が長いいため肉質も良好で、食味が豊かである。
- 黄羽肉鶏は出荷日齢によって高速成長型、標準型、低速成長型の3つに分類されるが、厳密な定めはなく、一般的には高速成長型は出荷まで42～65日未満、標準型は65～95日、低速成長型は95日以上とされる。低速成長型（清遠麻鶏や広西三黄鶏などの品種）は肉質が優れているため、主に中高級レストランや家庭での消費に広く利用されている。近年、肉質の高品質化ニーズの高まりから、低速成長型の割合は増加しており、今後もその傾向が続くと予想される。
- 黄羽肉鶏の出荷総羽数の約8割が生体で販売され、残りの20%弱が処理されて生鮮冷蔵品（丸鶏がメイン、分割品での流通はほど

くない）として流通している。黄羽肉鶏の主な消費先は中華レストランや家庭である。

- 近年、鶏肉需要市場における黄羽肉鶏の市場シェアが若干低下している。その主な要因は、核家族化により丸ごと1羽の黄羽肉鶏が一回の食事で消費しきれないことが大きい。そのほかにも消費者の消費習慣の変化や一部都市の生きた食鳥の取引市場の閉鎖（食品衛生及び公衆衛生上の懸念から）などが挙げられる。
- 黄羽肉鶏と白羽肉鶏は品種や肉質、消費需要などで異なり、相互代替可能性は低いとされる。
- 中華風ファーストフードチェーンや鶏肉加工品の専門店のフランチャイズ展開の拡大により、黄羽肉鶏とハイブリッド肉鶏の需要増加が期待される。

(1) 鶏肉需給の長期予測

■ 鶏肉の需給予測について

- 中国における将来の鶏肉に関する将来予測データは現在までに公表されていない。
- 現地ヒアリング結果によると、中国の鶏肉消費量は2022年の約1,700万トンから2032年には約2,000万トンに増加すると予測されている。
また、2032年の消費量の中で国内生産量が消費量全体の約99%を占め、鶏肉の輸入依存度が牛や羊などに比べて断然に低いとされる。
- 国内鶏肉消費量の増加背景には、1人当たりの食肉消費量や1人当たりのGDPの増加などがあつたほかに、最も重要な要因は3つある。
 - 高齢者化社会の進展
中国の高齢化社会の進展は、鶏肉の消費量増加に大きな影響を与えている。高齢者の腸や胃の消化機能が通常、比較的弱く、刺激性が低く消化しやすい鶏肉は、高齢者にとって重要な良質なたんぱく質源となる。
 - 調理の容易さ
鶏肉は牛肉や羊肉などに比べて調理時間が短く、調理が容易であるという特徴がある。これは特に単身世帯、高齢者世帯、共働き世帯などの需要が大きい。
 - 所得格差の拡大
中国の所得格差の拡大が影響している。通常、鶏肉が牛肉や羊肉、豚肉に比べ価格が低いことが挙げられる。そのため、低所得の人々にとって鶏肉は購入しやすい食肉となっている。

■ 鶏肉の需給構造予測について

- 鶏肉の消費構造は、直接消費、加工消費、その他の消費によって構成される。
 - 直接消費：生きた鶏や生鮮、冷凍の鶏肉（丸鶏や分割品）の消費
 - 加工消費：加熱加工品や調理済み、または半調理済みの鶏肉加工製品の消費
 - その他：輸送による損失やほかの動物飼料としての利用など
- 中国ではこれまで直接消費が主流であり、2022年には鶏肉消費全体の約86%を占めた。一方、加工消費は約13%にとどまる。
しかし、今後、直接消費の割合は徐々に低下し、加工消費の割合は2032年には約30%に達すると予測されている。
- 加工消費増加の要因
加工消費増加の主な要因は、食肉加工メーカーや鶏関連企業が鶏肉を原料とした商品の開発と生産拠点、生産規模の拡大に注力していることである。
特に、「預製菜」（調理済みや半調理済み製品）の製造が拡大しており、これが加工消費量の増加に大きく寄与している。